

The Japan Association of Radiological Technologists

ネットワーク・ナウ

Network Now

2025 No.599

11 / 1

JART 情報

<https://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル22階

TEL. 03-4226-2211 FAX. 050-3153-1519



ワクチン筋注行為に関する 実技講習会を開催しました

2022 (令和4) 年12月9日の厚生労働省医政局長通知により、今後、新たな感染症の流行 (パンデミック) が発生した場合、国や自治体の要請を受けて診療放射線技師がワクチン接種を行えるようになりました (特措法の一部改正 七.2-(2)-(5))。

なお、対象となるのは「令和3年厚生労働省告示第273号研修 (以下、告示研修)」の修了者です。しかし、この研修には筋肉注射 (筋注) の内容が含まれていません。そこで日本診療放射線技師会 (JART) では、新たに「ワクチン筋注行為に関するオンデマンド講習および実技講習会」を実施することになりました。

今回、第41回日本診療放射線技師学術大会の会期中に、初の大規模なワクチン筋注行為実技講習会を開催しました。午前と午後の2部制 (最終日は午前のみ) で行われ、開始時刻を午前10時に予定していたにもかかわらず、初日・2日目はいずれも9時過ぎには多くの参加者が列を成したため、開始を早めました。会員の皆さまの関心の高さを強く感じました。



参加対象者はオンデマンド講習を修了し、かつ福井学術大会に参加登録をされた方に限りましたが、事前の広報活動のおかげもあり、講習会は大きな混乱もなくスムーズに進行しました。結果として、9月12日に264人、13日に252人、14日に38人、合計554人が実技講習を修了されました。これらの方々、今後、各都道府県で開催される講習会においてファシリテーターとしてご活躍いただけることが期待されます。

JARTでは、今後、数年以内に修了者を約2万人とすること



を目標としています。全国で順次開催される実技講習会に、ぜひ積極的にご参加ください。

またこの講習会は、非会員の方でも要件を満たせば受講可能です。

全ての課程を修了された方には、将来、パンデミックが発生した際に自治体などからの出動要請に対応可能かどうかをご登録いただきます (登録は任意で、随時変更可能です)。



※この講習会を修了しても、日常診療においてワクチン接種や筋肉注射ができるようになるわけではありません。

(江端 清和)

国家試験日程決まる

第78回診療放射線技師国家試験の施行について、2025年9月1日付で厚生労働省から報告がありました。

試験期日は2026年2月19日(木)、試験地は、北海道、宮城県、東京都、愛知県、大阪府、広島県、香川県、福岡県です。試験科目は、基礎医学大要、理工学・放射線科学、エックス線撮影機器学、エックス線撮影技術学、診療画像検査学、画像工学、医療画像情報学、核医学診療技術学、放射線治療

技術学、放射線安全管理学、医療安全管理学です。合格発表は2026年3月23日(月)午後2時です。なお、試験に関する手続きおよび問い合わせ先は以下の通りです。

「診療放射線技師国家試験運営本部事務所」

〒135-0063

東京都江東区有明3-6-11 TFTビル東館7階

TEL: 03-5579-6903

第11回 ディスプレイの精度管理セミナー 開催される (旧 モニタ精度管理セミナー) (Web開催)

2025年9月6日(土)午後0時55分より、第11回ディスプレイの精度管理セミナーを一般社団法人日本画像医療システム工業会(JIRA)との共催でWeb開催致しました。

画像診断用ディスプレイの品質管理ガイドライン(JESRA TR-0049⁻²⁰²⁴)が制定され、これまで以上に画像診断に使用するディスプレイの選択・品質管理が重要になってきていることから、本セミナーでは、最新の品質管理に関する知見やディスプレイの基礎知識、ならびに品質管理の実態について学んでいただくことを目的としました。

本セミナーには53人の申し込みがあり、多くの方々の関心の高さがうかがえました。開講式では、本会副会長の児玉

直樹氏が海外出張中であつたため、JART事務局の江田哲男統括専門職が代行してあいさつを行いました。その後、埼玉医科大学国際医療センターの松田恵雄先生による「医用画像表示用ディスプレイの特徴と品質管理の実態」、続いて児玉副会長による「医療機器化の経緯／概要」(動画コンテンツ)の講演がありました。

休憩を挟んだ後、JIRAより「JISと整合を取った新しい品質管理ガイドライン(JESRA TR-0049⁻²⁰²⁴)の紹介」が行われ、さらに大船中央病院の青木陽介先生から「病院での品質管理について」と題してご講演いただきました。最後に質疑応答を経て閉講式が執り行われ、盛況のうちに終了しました。

令和7年度 診療放射線技師職域団体との懇談会 開催される (Web開催)

2025年9月27日(土)午後2時より、公益社団法人日本診療放射線技師会と職域団体との懇談会をWeb形式で開催致しました。本会からは上田克彦会長をはじめ、副会長の富田博信・児玉直樹・江藤芳浩、業務執行理事の江端清和、理事の菊地克彦・川守田龍・園田優、監事の小川清・中村勝が出席し、計10人が参加しました。職域団体からは全国国立病院療養所放射線技師会、全国公立大学病院放射線連絡協議会、済生会診療放射線技師長会、徳洲会放射線技師部会など16団体・25人が参加し、各分野から多角的な意見が寄せられました。

会議では、JARTの令和7(2025)年度事業計画の進捗報告

をはじめ、「JART Vision 2040」の経過、生殖腺シールド廃止への対応、ラダー制度の推進、会員向け無料コンテンツや保険制度の紹介、甲状腺モニタリングなど、幅広い事業について説明が行われました。また各職域団体からは、人材育成や働き方改革、若手技師の定着、教育機関との連携強化などの現場の課題が報告され、活発な意見交換が行われました。終始穏やかで建設的な雰囲気の中会議は進行し、診療放射線技師の現状と将来の方向性を共有する有意義な機会となりました。今後も本会は、各職域団体との連携を一層深め、より良い医療提供体制の実現と会員の資質向上に努めてまいります。

2025年度 放射線被ばく相談員フォローアップ講習会 開催報告 (Web開催)

放射線被ばく相談員分科会 分科会長 五十嵐 博

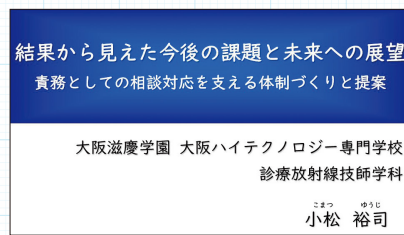
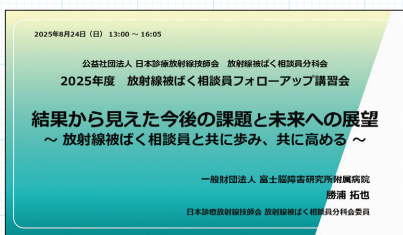
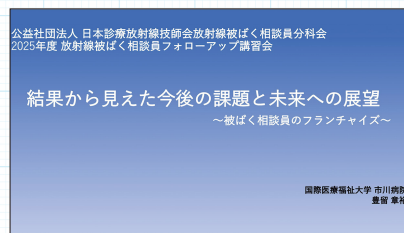
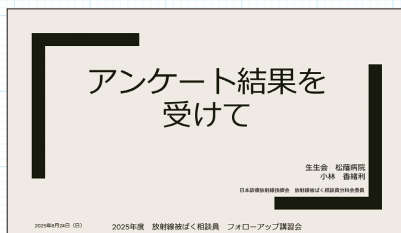
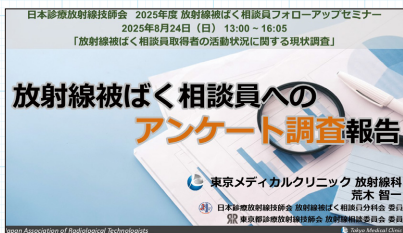
2025年8月24日(日)午後1時から、標記講習会をZoomで開催致しました。日曜日の午後にもかかわらず、全国から132人と多くの参加がありました。今回のテーマは「放射線被ばく相談員へのアンケート調査結果から見た今後の課題と未来への展望」でした。

国際医療福祉大学市川病院の豊留章裕先生の司会で始まり、東京メディカルクリニックの荒木智一先生による「放射線被ばく相談員へのアンケート調査結果報告」では、昨年度全有資格者513人に実施した調査結果が報告され、被ばく相談窓口の開設や運用状況、課題についても詳細に報告がありました。なお、荒木先生の調査結果は論文として採択され、本会会誌に掲載予定ですので、詳細はそちらでご確認ください。

その後、「結果から見た今後の課題と未来への展望」と

して、松蔭病院の小林香緒利先生からは、ソフト面とハード面という視点からのお話がありました。豊留章裕先生からは、マーケティングの観点からバランスが重要とお話がありました。富士脳障害研究所附属病院の勝浦拓也先生からは、相談窓口開設後の相談件数とモチベーション維持が課題である旨のお話がありました。野田総合病院の笹崎俊宏先生からは、分科会主導による相談窓口開設マニュアルの作成や業務化に向けた制度への提言がありました。大阪ハイテクノロジー専門学校の小松裕司先生からは、相談対応を善意だけに頼るのではなく、無理のない取り組みとして支えていくことが重要であるとお話がありました。

「総合討論」では、Q&Aを用いて受講者の皆さまからの質問に答えたり、アドバイスをしたりと、充実した時間となりました。これからも放射線被ばく相談員の皆さまが活躍できる環境づくりについて積極的に支援してまいります。



医療安全推進週間の実施について

厚生労働省では、2001(平成13)年度より毎年11月25日(いい医療に向かってGO)を含む1週間を「医療安全推進週間」と位置付け、医療安全対策に関し、医療関係者の意識向上、医療機関や医療関係団体における組織的取り組みの促進などを図るとともに、国民の理解と認識を深めることを目的とし、医療安全対策の推進を図り、さまざまな事業を実施しています。

本年度も2025年11月23日(日・祝)から11月29日(土)までを「医療安全推進週間」とし、医療安全対策の普及・啓発活動を全国的に実施します。本会も後援団体となっています。

詳細は、厚生労働省のホームページ(以下URL)で紹介されています。

- ・本年度の「医療安全推進週間」について；

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/iryuanzen2023_00007.html

- ・これまでの「医療安全推進週間」について；

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/i-anzen/iryuanzennotorikumi_h31ikou.html

INFORMATION

学術教育委員会 放射線治療WG主催 2025年度 第1回 IGRT Webセミナー 開催報告 (Web開催)

学術教育委員会 霜村 康平

2025年9月28日(日)、本会学術教育委員会放射線治療ワーキンググループ(WG)主催による「第1回IGRT Webセミナー」を開催しました。テーマは「マージンの理解から算出まで」とし、Web形式で実施しました。募集定員200人に対して早期に定員に達するなど、開催前から高い関心が寄せられたセミナーでした。

本セミナーは、2021年より開始された画像誘導放射線治療(IGRT)における画像の一次照合のタスク・シフト/シェアに対応するため、診療放射線技師に求められる知識とスキルを身に付けることを目的に開催されました。内容は、日本放射線技術学会と本会の協働により発行された放射線医療技術学叢書(40)「実践IGRT」および本会発行の「IGRT教育ガイド」を基礎資料として、臨床応用に必要な専門的知識を平易に解説する構成としました。

開催内容は、以下の5講義と総合討論を実施しました。

1. IGRTの現状(徳島大学大学院 佐々木 幹治 先生)
2. IGRTに必要な実践力(京都府立医科大学附属病院 太田 誠一 先生)
3. マージン算出の前に知っておきたい統計のポイント(群馬県立県民健康科学大学 津野 隼人 先生)

4. マージン設定の根拠がわかる不確かさの基本(群馬県立県民健康科学大学 津野 隼人 先生)

5. PTVマージンの考え方(九州大学病院 廣瀬 貴章 先生)
各講義後には活発な質疑応答が行われ、参加者から寄せられた質問に対して、講師陣より丁寧かつ実践的な回答が返されました。臨床現場で即時活用可能な内容が多く、参加者の満足度も高い有意義なセミナーとなりました。

本セミナーの開催に当たり、ご講演を賜った先生方に深く感謝申し上げます。また開催に際してご助言・ご協力を頂いたがん対策委員会、当委員会放射線治療ワーキンググループメンバー、および本会事務局の皆さまに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



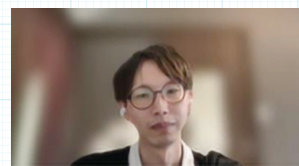
佐々木 幹治 先生



太田 誠一 先生



津野 隼人 先生



廣瀬 貴章 先生

オートプシーイメージング(Ai)認定診療放射線技師制度の 認定機関移行について

INFORMATION

平素より本会の諸事業に対し、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、日本診療放射線技師会が運営しておりました「オートプシーイメージング(Ai)認定診療放射線技師」制度につきまして本会ではその役割を終えることとなりました。2026年度より認定および更新に関する業務は「日本オートプシー・イメージング技術学会(JSAIT)」が実施致します。

本年度までの認定更新はJARTで行いますが、新規の認定は行いません。会員各位におかれましてはご理解とご協力をお願い致します。

■ 認定制度移行スケジュール(予定)

新規認定先: 日本オートプシー・イメージング技術学会(JSAIT)

実施時期: 2026年度認定(更新・新規)より

対象: オートプシー・イメージング認定診療放射線技師の更新および新規認定を希望される診療放射線技師

■ 会員の皆さまへのお願い

1. 2025年度内の更新申請: 従来通り日本診療放射線技師会で受け付け致します(移行作業に伴い、2025年度内の新規申請の受け付けは中止させていただきます)。
2. 2026年度以降の更新・新規申請: 申請先が日本オートプシー・イメージング技術学会へ変更になります。手続きや申請方法は、下記ホームページをご参照下さい。

日本オートプシー・イメージング技術学会 認定診療放射線技師制度

<http://japanese-society-of-autopsy-imaging-and-technology.kenkyukai.jp/special/index.asp?id=47042>

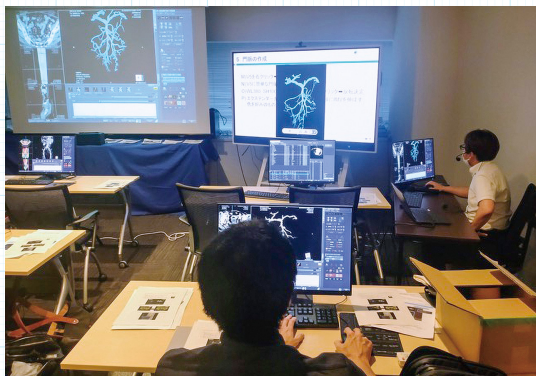
オートプシー・イメージング認定診療放射線技師制度は、死亡時の画像診断技術の信頼性と品質を担保し、死因究明における診療放射線技師の社会的役割を支える重要な制度です。会員の皆さまにおかれましては、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



2025年度 画像等手術支援分科会 第1回 ハンズオンスキルアップセミナー (初級編) 開催報告

画像等手術支援分科会 分科会長 平野 透

2025年9月28日(日)、株式会社根本杏林堂3F会議室で2025年度 画像等手術支援分科会 第1回ハンズオンスキルアップセミナー(初級編)を開催致しました。今回のセミナーも昨年の第1回と同様に、3次元画像作成を最近始めた方、今後始めたい方を対象にプログラムを構成致しました。昨年の同時期にも初級編として開催しましたが、本年度はワークステーションの基本操作からCTの画像再構成なども盛り込んだ内容にして、臨床で3次元画像作成を行う前の基礎知識などを多めに実践していただきました。またここ数年、ハンズオンスキルアップセミナーでは午前3講習、午後2講習として1講義当たりの時間を長めのプログラムにしていたましたが、より多くの内容を受講者の方にお伝えしたいと考え、今回のセミナーでは開催時間は昨年とほぼ同じですが、1講義当たりの時間を調整して午前4講習、午後4講習とし、多くの部位や症例を経験していただきました。プログラムも昨年とはほとんど異なる内容としたため、前日にセミナースタッフが集まり、受講者の方が理解しやすい操作方法になるよう、講習ごとに作成したハンドアウトを確認しながらリハーサルをして事前準備を行いました。



セミナー前日のリハーサル

講習会内容を新しいものに変更したので、長時間にわたりリハーサルを行いました。

当日のセミナーでは、作成したハンドアウトの流れに沿って、またセミナーの講師陣が作成した画像作成に関するスライドなども盛り込みながら講習を進めていきました。ハンドアウトは、受講者の方が自施設に戻ってセミナーと同じような症例や画像再構成を行う場合でも参考になるよう作成しており、講習中に操作に迷う方にはスタッフが丁寧に解説し、誰一人取り残され



当日のセミナーの風景

受講者の皆さん、ハンドアウトや講師が作成したスライドを見ながら真剣に受講されていました。

ないように進めていきましたので、参加された方にとっては貴重な時間を過ごされたのではないかと考えております。

次回、第2回ハンズオンスキルアップセミナーは2026年1月18日(日)に開催致します。次回も初級編を行います。第1回とは異なるプログラム、異なる画像処理ワークステーションを使用しての開催となりますので、今回参加された方も含めて画像処理に興味のある方は参加していただきたいと思います。また本年度より、ハンズオンスキルアップセミナーの画像処理操作に関する動画を日本診療放射線技師会のホームページで閲覧できるよう、現在、画像の編集を行っていますが、ハンドアウトは当日参加された方への配布、さらに講師のスライドもセミナーでしか見ることができないものもありますので、セミナー会場に足を運んでいただければと思います。最後にNetwork nowへの掲載のため、集合写真撮影にも快く協力していただいた受講者の皆さま、1日大変お疲れさまでした。



セミナー終了後、受講者とスタッフ全員で記念撮影
受講者の皆さん、1日大変お疲れさまでした。

2025年度 第19回JSRT-JART 合同市民公開講座 開催報告

公益社団法人愛知県診療放射線技師会 会長 水口 仁

2025年9月28日(日)、名古屋市立大学病院大ホールで2025年度第19回JSRT-JART合同市民公開講座が愛知県診療放射線技師会第18回県民公開講座との共催で開催され、一般市民164人の参加があり診療放射線技師やスタッフも含めると229人の方に聴講していただきました。講演が開始される前に弦楽四重奏によるミニコンサートや骨密度測定体験が行われました。ミニコンサートでは耳なじみのある5曲が演奏され、生の音の魅力を存分に堪能することができました。また骨密度測定体験では先着100人ということもあり、受付開始前から多くの方が来場し、順番待ちをされていました。



講演の1番目には、近年、自然災害が多く発生しており、診療放射線技師もDMAT隊として活動していることを知っていただくために「令和6年能登半島地震のDMAT活動」と題して、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の林隆宏技師より、実際にDMATとして災害救護活動をした内容や経験して感じたことについてご講演いただきました。

その後の講演では、今回のテーマである「健康寿命を延ばす」に関連して、診療放射線技師2人と医師1人にご講演いただきました。まず名古屋大学医学部附属病院の加藤裕技師に「あなたの脳は大丈夫!?～MRIで見る(診る)脳老化～」と題して、認知症に関する最新の知見の紹介や予防の重要性についてお話しいただきました。続いて名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院の加藤勝也技師より「健康寿命を支える! 腰椎と膝のCT・MRI検査でわかる身体の変化」と題して、腰椎と膝のCT・MRI検査の画像を提示しながら、病気の説明や身体で起きている変化についてのお話がありました。最後に名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院リハビリテーション科教授の植木美乃先生より「高齢者疾患におけるリハビリテーション治療と画像診断の融合」と題して、高齢者の運動不



足予防によるデコンディショニング対策や、脳卒中後の言語機能障害に対する、画像とニューロモジュレーションを融合させた新たなリハビリテーション治療についてのご講演を賜りました。

2024年の発表では、日本の平均寿命は男性81.09歳、女性87.13歳ですが、健康寿命は男性が72.57歳、女性が75.45歳でした。全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現のために、健康寿命の延伸が必要と思われます。今後も一般市民の方に有用な情報提供ができるように取り組んでいきたいと思ひます。



告示研修 開催報告

東京都

公益社団法人東京都診療放射線技師会 会長 江田 哲男

2025年9月6日(土)・7日(日)の2日間にわたり、慶應義塾大学附属病院の新教育研究棟で「令和3年厚生労働省告示第273号研修(告示研修)における実技研修」を開催致しました。両日共に定員となる47人の参加を頂き、会場は大変活気にあふれました。東京都での研修は、毎回告知から数日のうちに定員が埋まってしまう状況が続いており、首都圏でのニーズの大きさを改めて実感しております。毎年度12回の開催を重ね、これまで数多くの修了者を送り出してきたことは、私たちの誇りであり、同時に医療現場の発展に確実に寄与しているものと考えています。



本会では、ファシリテーターの先生方が日頃の臨床経験を踏まえつつ、各施設で取り組まれている業務拡大の実例や工夫を交えながら、きめ細かい指導を行っています。

ファシリテーターの皆さまには、貴重な休日を割いてご協力いただいていることに心より感謝申し上げます。研修回数を重ねるごとにファシリテーター同士の絆が深まり、チームとして協力し合いながら研修を進められる環境が整ってきました。その結果、和やかでありながらも充実感のある研修が実現しており、このことが東京都診療放射線技師会全体の活性化にもつながっていると感じています。



本告示研修は本年度をもって終了となりますが、残りの研修も1回1回を丁寧に、そして楽しみながら実施していきたいと考えています。今後も意義ある研修を提供できるよう尽力してまいります。

宮崎県

一般社団法人宮崎県放射線技師会 副会長 篠原 暢孝

2025年9月27日(土)、宮崎県立宮崎病院 研修棟で告示研修(実技)を開催致しました。前回、6月の土・日で計画を立てておりましたが、参加希望者が規定の人数に満たず、今回は土曜日だけの開催としたため、29人の参加となりました。

宮崎県においては2022年度より告示研修を開始し、今回が17回目の開催となり、合計で県内外より356人にご参加いただきました。開催当初は医師の方々との連絡やファシリテーターの調整、設営の準備に時間がかかるなど問題点が多

数ありましたが、17回目となる今回では手慣れてきたこともあり、準備から講義、実習・片付けまでスムーズに運営することができました。次회가宮崎県での最後の開催になりますが、2026年1月17日(土)、宮崎県立宮崎病院 研修棟で開催致します。身近に未受講の方がいらっしゃいましたら、受講をご案内いただけますと幸いです。最後に、毎回会場をお借りしておりました宮崎県立宮崎病院の皆さま、運営スタッフの皆さまに感謝を申し上げ、開催報告とさせていただきます。

学術研究助成金の公募について

診療放射線学および診療放射線技術の向上に寄与し、診療放射線技師の将来的発展が期待できる研究について、下記の通り公募することになりましたのでお知らせします。

1. 応募条件：本会の会員であり、診療放射線学および診療放射線技術の向上が期待できる優れた着想を持った研究であること。なお、研究分担者がいる場合には、全員が本会の会員であること。
2. 助成金額：上限を50万円とする。ただし、審査結果によって決定額が変動する場合がある。
3. 研究期間：2026年4月1日から1年間とする。
4. 公募期間：2025年10月1日(水)から11月14日(金)まで(必着)
5. 申請方法：本会ホームページより必要書類をダウンロードの上、公募期間内に必要書類を全て日本診療放射線技師会事務局に提出すること。
6. 審査結果の通知：審査結果については、申請者に対して書面で通知する。
7. 学術研究における倫理：人を対象とした研究を行う際には「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従って研究を遂行すること。また申請時に所属施設などの研究倫理委員会などの承認を得た場合は、倫理申請承認施設名と番号を記載すること。
8. 研究成果の公表：本研究の研究成果の全部または一部については、本会刊行物などにおいて公開する。また他の機関誌などに公開する場合は、事前に本会の承認を受けるとともに、本会学術研究助成金による研究の成果である旨を明記すること。

INFORMATION

INFORMATION



第2回

第42回 日本診療放射線技師学術大会

山形への道 Go To YAMAGATA

実行委員長 佐藤 俊光

(一般社団法人山形県放射線技師会 理事)



会場紹介

皆さまをお迎えする今回の会場は、**山形国際交流プラザ「ビッグウイング」**です。

第42回日本診療放射線技師学術大会は、この地で開催されます。

ビッグウイングは山形市北部に位置し、展示棟・会議棟・交流ホールを中心とした複合施設です。ガラス張りの明るく開放的な空間が印象的で、会議棟と展示棟のつながりも分かりやすく、超大型施設ではありませんので「会場で迷子になる心配はほとんどありません」。参加者の皆さまに、まさに“学術の祭典”をご体感いただける会場です。



ビッグウイング外観



大会議室



交流サロン

会場アクセス

ですが、玉に瑕（たまにきず）のところもあります。

ビッグウイングは山形駅周辺から「歩けなくはないけれど、歩くにはちょっと大変」という絶妙な距離にあります。マラソンが趣味の方にはちょうど良い距離かもしれませんが、多くの方にとっては多分、きつと、もしかしたら不便…かもしれません。

そこで登場するのが **大会専用シャトルバス**！

山形駅周辺から会場までを結びます。バスの車窓から眺める山形の街並みは大会前後の緊張感を和らげ、また小さな観光気分も味わうことができるでしょう。

会場には **普通車1,000台分の無料駐車場**もありますので、お車でのご来場も安心です。

周辺観光スポット

大会参加の合間や前後に、山形ならではの名所にもぜひ足を運んでみてください。

- ・ **山寺（立石寺）**… 松尾芭蕉が「閑さや岩にしみ入る蟬の声」と詠んだ名所（会場から車で25分、約15km）。
- ・ **天童市**… 将棋駒の聖地として有名（会場から車で15分、約10km）。
- ・ **蔵王温泉・スキー場**… 冬には樹氷（スノーモンスター）も見られる名所（会場から車で35分、約25km）。

どれも「車でちょっと行ける距離」にあり、大会と観光を両立させるには最適なロケーションです。ですが、マラソンが趣味の方でも往復となると難しいかもしれません。

実行委員会からのメッセージ

本大会が、知識と技術の交流にとどまらず、参加者の皆さまにとって記憶に残る出会いと発見の場となりますよう、実行委員一同、心を込めて準備を進めております。

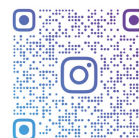
皆さまのお越しを、心よりお待ち申し上げます。



JCR42
YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/@JCR42>



山形県放射線技師会
Facebook
<https://www.facebook.com/profile.php?id=61574051232747>



山形県放射線技師会
Instagram
<https://www.instagram.com/yamahogi/p/>

**第42回**

The 42nd Japan Conference of Radiological Technologists

日本診療放射線技師学術大会

第33回 東アジア学術交流大会

The 33rd East Asia Conference of Radiological Technologists (EACRT)

新たな潮流 紡ぐ灯

人とAIがもたらす放射線技術の未来

JARTスローガン

安全と信頼、診療放射線技師の使命と責任を果たそう

日時

2026
9/11 Fri - 13 Sun

場所

山形ビッグウイング
(現地開催+オンデマンド)

立石寺 (山寺) 不滅の法灯

会長

上田 克彦

公益社団法人 日本診療放射線技師会 会長

主催 | 公益社団法人 日本診療放射線技師会

共催 | 一般社団法人 山形県放射線技師会

大会長

鈴木 幸司

一般社団法人 山形県放射線技師会 会長

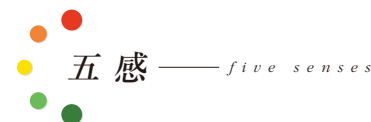
後援

厚生労働省 (予定) / 公益社団法人 日本放射線技術学会
山形県 / 山形市 (予定)

大会事務局

一般社団法人山形県放射線技師会
〒990-9585 山形県山形市飯田西 2-2-2
山形大学医学部附属病院放射線部内Tel : 023 (628) 5786 Fax : 023 (628) 5799
E-mail : 42jart@gmail.com

病院経営を支えるために診療放射線技師ができること

シリーズ連載
series serialization

現在、全国的に多くの病院が厳しい経営状況に直面しています。私たちの病院も例外ではなく、今後、いかにして収益を確保し、安定した医療を継続していくかが大きな課題です。

診療放射線技師の仕事は「検査を行う」ことが中心ですが、実は少し視点を変えることで、病院経営そのものにプラスの影響を与えることができます。今回は、私が実際に取り組み、成果を上げることができた3つの事例を紹介しますので、少しでも参考にしていただけると幸いです。

1. データ分析から見えた改善点

診療報酬請求に使用される「E・Fファイル」というデータを分析し、検査や診療の傾向を確認しました。その結果を医師にフィードバックし、「入院中は必要以上の検査を控え、可能な検査は外来で行う」という工夫をお願いしました。数字やグラフを用いた説明は説得力があり、改善項目を理解していただくことができました。

2. 副傷病名の見直し

医事課と連携し、副傷病名を整理・追加しました。正しく診療録に反映することで、DPC制度の下でも収益の改善につながり、結果的に病院全体に大きな効果をもたらしました。

3. リハビリテーションとの協力

リハビリのスタッフと面談を重ね、業務の工夫や調整を行ったことで、リハビリ単位数を増やすことができました。これは出来高部分の収益増加につながり、病院経営への直接的なプラスとなりました。

これらの取り組みを通じて、診療放射線技師の知識やデータ分析の視点を生かすことで、病院の収益改善に貢献できることを実感しました。病院が厳しい状況にある今だからこそ、私たち一人一人が専門性を生かし、他職種と協力し合うことが重要です。診療放射線技師としての役割を超え、チーム医療の一員として病院を支えていきたいと考えています。(文責：後藤 吉弘)

11月・12月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

- STAT 画像所見報告セミナー : Web開催 2025年12月 2日(火)
- 放射線取扱主任者定期講習 : 東京 2025年12月19日(金)
- 認定資格試験：全国のCBTテストセンターのパソコンで試験を実施(テストセンター一覧：<https://cbt-s.com/examinee/testcenter/>)
2026年 1月18日(日)まで実施

- 告示研修(実技研修)／業務拡大に伴う統一講習会：
本会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム(JARTIS)をご参照ください。

[e-ラーニング(ストリーミング方式)]

- 医療放射線安全管理責任者講習会 2026年1月25日(日)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から2026年3月1日(日)まで何度でも視聴いただけます。
- 死亡時画像診断(Ai)研修会 2025年11月10日(月)午前11時から2026年2月2日(月)午後3時まで(予定)
※e-ラーニング形式。お問い合わせは日本医師会 医事法・医療安全課 03-3942-6506まで。
・e-ラーニング：2025年11月25日(火)午前10時から2026年1月31日(土)午後1時まで
※e-ラーニングは、配信期間中であれば繰り返し受講可能。
配信期間内に修了しなかった場合は集合研修のご案内を致しません。
・集合研修：2026年 2月 8日(日)【オンライン演習】
※集合研修の受講は、e-ラーニング(36時間)を全て受講した者に限る。
- 医療安全管理者養成研修
- 認定資格の取得を目指す在宅講習 2025年12月19日(金)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から各認定資格試験終了日前日まで何度でも視聴いただけます。
※本講習会を修了しませんが、認定資格試験のお申し込みはできません。
- 放射線診療に従事する者に対する診療用放射線の安全管理のための研修(在宅) 2026年1月25日(日)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から2026年3月1日(日)まで何度でも視聴いただけます。
- 告示研修(基礎研修) 2026年3月31日(火)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から告示研修終了まで何度でも視聴いただけます。
- 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針オンラインセミナー 2027年3月31日(水)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日からセミナー終了まで何度でも視聴いただけます。
- オンラインセミナー(在宅)：本会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム(JARTIS)をご参照ください。

※このご案内の公開時に、定員に達して申し込みができない講習会・セミナーがある場合がございますのでご了承ください。

事務所
案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。

ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日～1月3日)は執務致しません。